

おひさまっこ保育園自己評価表

2021年度 評価責任者：管理者 菊池彩子

| | 今年度の活動 | 評価・反省 課題 |
|----------|---|---|
| 施設管理 | 非常階段にサビ等あったため、改修工事を行った。北側に位置しており、湿気がたまりやすいため、防水機能のある素材にした。玄関入り口に雨漏りがあったため、修繕した。 | 防水加工のある素材にかえたことで、長期的に修繕の必要がなくなった。雨漏りについては、引き続き様子を見ながら対応していく。 |
| 人事管理 | 連携施設であるおひさま保育園と職員の交換研修を行い、様々な視点で子ども理解や保育を考え合ってきた。 | 小さな保育園だが、姉妹園の職員が来ることで、多面的に子どもを理解したり、保育を考えていく事につながった。 |
| 保護者対応 | 今年度よりどの職員も全園児の担任という位置づけとしてきた。4年目を迎え、おひさま保育園への引き上げ転所が定着してきている。保護者の懇談会や行事を連携して共に行う中で、保護者同士のつながりが生まれてきている。新型コロナウイルスに罹患し、療養期間で自宅待機が長期にわたった家庭には、子どもが遊べる教材などを届けながら、子どもの様子や家庭の状況を聴く機会をもった。 | 担任制をなくしたことで、クラスを越えた保護者同士のつながりも生まれてきた。また、行事や懇談会を共に取り組む中で、連携施設の保護者とも子育てに喜びや悩みを共有できる関係がつけられてきています。 |
| 健康及び安全 | 健康面では、感染症など大きな広がりはなかった。新型コロナウイルスは感染もほぼみられなかったが、1月に1名罹患児が出た際に、4日間のクラス閉鎖とした。 事故件数については2件あり、転倒による怪我で、どちらも歯科受診であった。 | おひさま保育園と行事や日常の保育の面で連携をしているが、感染症が出た場合などは環境を分けながら生活することで、感染症が拡大することなく過ごせた。 乳児だけの小さな施設の為、連携施設であるおひさま保育園や戸外への散歩など活動に取り入れながら、子ども達の身体作りを継続して考えていく。 |
| 小学校・地域連携 | 自治会、社会福祉協議会と連携し、介護予防体操（ぐんぐん元気塾）、認知症とその家族の交流の場（オレンジカフェ）、お弁当配布などに場所の提供を実施。おひさま保育園の卒園児ボランティアの受け入れを、人数制限をしながら実施した。 | 地域の様々な方が保育園を利用することが、子ども達はたくさんの方の温かいまなざしの中で保育園生活を送ることに繋がっている。地域の拠点としての役割が担えるよう今後も取り組んでいきたい。 |
| 保育の質の向上 | 園内研修ではおひさま保育園と共に長瀬先生、杉山先生を講師に、年間を通し、保育実践から学ぶ機会を持った。また、リモートを活用しながら行った。外部研修にも積極的に参加し、新たな学びが広がった。法人研修では、子どもの権利や権利擁護について研修を実施した。 | 保育園の課題や職員の学びたい要求から、園内研修を実施してきた。コロナ禍でリモート研修が増えているが、みんなで学ぶ機会をつくっていく。 |
| 地域との関わり | 赤ちゃんの駅事業や子育て相談など、実施できるものは実施した。子ども達が手作りした季節の制作物を地域に届け、交流を図った。その中で、子どもが来ることを楽しみにされたり、園に気持ちを寄せて頂ける関係がつけられてきている。 | 地域の子育て世帯の現状や思いを把握しながら、地域をつながりがもてる取り組みを考えていく。 災害が起こった際に、避難所としての機能を果たしていけるよう、備蓄品を確保していく。 |
| その他 | | |